



幸町小だより

「思いやりのある子」「考える子」「けんこうな子」

予測が困難な社会の変化の中で生き抜く力の育成

校長 駒崎 弘匡

P T A交通安全当番の保護者や民生委員の方々に安全を見守られながら、元気に登校してくる児童の姿を見ると心が安らぎます。低学年の児童は挨拶が大きな声で言えるようになってきました。保護者や民生委員の皆様におかれましては、朝の御多用の中、また、不順な天候の中で児童の登校を見守ってくださりありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症が専門家から予想されていたとおり長期化の様相を呈してきました。また、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新などにより、社会構造や雇用環境も大きく急速に変化してきており、予測が困難な時代になっています。

こうした時代の中で、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことが求められています。今、まさに新型コロナウイルス感染症という困難の中で目の前にしている問題に精一杯取り組むことこそが、これからの大きな力や自信につながると思います。

その時、モデリングは重要なプロセスです。子供たちは親や教師、年長者、憧れの人などの考えに気付いたり態度や行動を見たりして価値観や規範を身に付け、行動していきます。子供たちにとって、周りの大人の存在は大きいものです。「みんなで知恵を出し合うと、思いつかなかったよい解決方法が見つかるものなのだなあ」「暗い気持ちにならないで元気な毎日を送るには、こんなことが有効なんだ」など、試行錯誤をしつつ実践を重ねていくことそれ自体が、私たち大人にとっても、そしてさまざまな制約の中でストレスを抱える子供たちにとっても大切なことなのではないかと考えます。

学校教育ではこれまで「生きる力」(自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動しよりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力)を育む教育に力を注いできました。今、問われているのは、モデルとなる私たち大人の「生きる力」なのかもしれません。

明日から約3週間の夏休みがスタートします。子供たちの夏休みの過ごし方は昨年までとは違ってくるかと思えます。健康・安全に十分気を付けて、夏休みを有意義に過ごせることを願っています。